

久住 時男 見附市長 プレゼン資料

遊水地の創設 新潟県見附市

H16年7.13水害では、1,750^{m³}/sの水が刈谷田川に流れ込み、被害拡大の要因となった。
⇒河川の改修により1,550^{m³}/sの水を流すことが可能となったが、それでも**200^{m³}/s不足**。



H16年7.13水害被災状況

地元住民や地権者、関係機関の理解と協力を得て遊水地を整備。

市内の雨量	24時間雨量	時間最大雨量
H16.7.13	317.0mm	44.0mm
H23.7.30	170.5mm	68.0mm

- 市内の時間最大雨量は、H16年と比較して1.5倍であったが、市内の住宅被害は激減。
- 国や県の検証において、下流域の被害軽減に大きく寄与したと評価されている。




H23年 遊水地の状況

・遊水地貯水量：約235万^{m³}
 刈谷田川ダムの洪水調節容量＝約393万^{m³}の約60%に相当
 ・洪水調節機能：200^{m³}/s ⇒ **H23.7.30実績 180^{m³}/s**
 ・面積：約91ha ・池数：6池 ・地権者：355名
 ・住民説明：H16年度～H21年度 ・工期：H18年度～H22年度(事業費34億円)
 ・完成：H23年2月 ・地元報告：H23年7月13日

市内の住宅被害	全壊	半壊	床上浸水	床下浸水	一部損壊	被害総額
H16.7.13	0棟	1棟	880棟	1,153棟	2棟	184.0億円
H23.7.30	2棟	3棟	51棟	408棟	2棟	14.3億円

市街地の内水対策 新潟県見附市

雨水貯留管・緊急排水ポンプ



貯留管のイメージ

- 貯留管径φ2600mm 延長586m 貯留量3,433^{m³}
- 貯留引抜管径φ1000mm 延長228m 貯留量178^{m³}
- 緊急排水ポンプ 排水能力1^{m³}/s

住宅被害	床上浸水	床下浸水	一部損壊
H16.7.13	166棟	206棟	1棟
H23.7.30	8棟	5棟	0棟

田んぼダムによる流量抑制



田んぼダムによる流量抑制

- 計画面積 1,200万^{m²} (H23年度未現在、70%実施済み)
- 総事業費 1,000万円
- 貯水量 252万^{m³}
- 刈谷田川ダムの洪水調節容量＝約393万^{m³}の約64%に相当
- タイやフィリピンなど、世界各国の行政官が視察

農家の負担を軽減するため、調整不要な新型管の導入実験開始。

実施率38%⇒100%を目指して

実施率	床上浸水	床下浸水
未実施	9.3ha	212.4ha
100%実施	0.0ha	15.5ha

降雪井戸による減災(内水)



降雪井戸による減災(内水)

- H20年度から実験開始(市単独)
- 井戸(φ250mm)1箇所あたり、約1.5^{m³}/m注入可能
- 降雨強度小の長時間継続型降雨に対して特に有効
- ⇒実績降雨試算では**氾濫量で約3割、浸水頻度で約2割低減**。

H24年度 市役所周辺で実証実験
⇒市内400箇所以上ある井戸の中で、実施可能な場所に範囲拡大を検討。

災害を経験した自治体として

- 「防災」とは災害を封じ込めることではなく、被害をいかにして食い止めるかという「減災」である。
- H23年の水害で被害が激減したのは、H16年の水害を教訓に取り組んできた対策が功を奏したものの。
- 災害を経験した自治体として、これまで培ってきたノウハウを伝えていくことが責務である。